



GIGA と支える力

栗東市教育委員会 教育長 福原 快俊

今年から GIGA スクール構想で、各小・中学校に、一

人一台のタブレット PC が配置され、高速通信ネットワークを介して互いにつながる環境が完成しました。誰もが考えるように、この環境を活用して、学校が休みになったときの遠隔授業（オンライン授業）や、個別学習の道具として利用するという利用形態は、このタブレット PC+高速ネットワークの可能性の、ほんの一部でしかありません。

先日、この GIGA スクール構想で、一人一台のタブレット PC+高速ネットワーク環境が設置された中学校で、その活用の仕方についてデモンストレーション授業をしていただきました。

以前、『「分かる」と「学ぶ」』というテーマで執筆させていただく機会がありました。（滋賀教育 H30 年 6 月 1 日）学習して「分かる」ということは、自分が知りたいと思う対象（客体）を自分（主体）の前／対面に置いて、観察、分析して詳しく知ろうとする、主客を分ける態度（客観をめざす態度）であって、一方、「学ぶ」ということは、自分が目指す目標や対象を、自分のものにしよう、自分と一体化しようすることであると説明してきました。

この観点から、先ほどのデモンストレーション授業を考えてみると、英語の授業では「I have been to ～」という表現は「（私は）～へ行ったことがある。」という意味であると「分かった」。その知識を使って自分の体験を、タブレット PC でつくったプレゼン資料を見せながら「I have been to Tokyo. I ate Monja-yaki. I had a good time there.」などと表現する。これは、ひとつの

表現を使えるところまで「学んだ」ということになります。

国語の授業でも、同様の活用とグループでの発表が、ことばと活動の一体化した「学び」へ踏み出しているといえるでしょう。

数学の授業では、因数分解の問題を解いていました。即座に集計され、グラフ化された結果をみて、正解が少なかった問題は、共通した誤りがあるのではないかという仮説から、先生は「気をつけなければいけないのは、どこかな？」と質問する。手を挙げた生徒は、「数字だけでなく、記号も（ ）の外に出さないといけない。」と発言する。そのことを聞いた他の生徒は、自分の間違えたことを確認して、この問題の意図と一つになったといえ、自分ひとりが「分かった」という個人的な知識・理解の段階から、多くの人が間違えたのはなぜかということを考えて、発表したことで、集団の「学び」につながったともいえるでしょう。その意味で、タブレット PC の分析が、「分かる」からクラス一体となった「学び」へと導くツールの役割を果たしたと思います。

前回の『教育研究所だより No85 号』に、スウェーデンの精神科医アンデシュ・ハンセンが書いた「スマホ脳」という本から引用して、デジタルメディアの弱点をとりあげました。この弱点を超えて ICT を活用して新しいデジタル社会を切り拓いていくためには、PC やネットワークを活用する前に、前提として身につけておくべき力が、確かにあるのではないかと考えています。

現在、SNS での中傷やネット差別発言など、デジタルメディアの世界での課題がとりあげられる

ことが多くなりました。それらが、単なるネット上のマナーの問題、あるいは個人のパーソナリティーの問題であるかのように考えられているとしたら大変です。デジタル社会を生きていくためには、リアルな社会と同様の法的な環境の成熟が必要であるし、匿名性ゆえに罪悪意識が薄くなることも含んだ上で、望ましい倫理観と自分をコントロールする自制心を育てることなどが、ますます重要になってくると思いますが、それらを下記に簡単にまとめてみました。

- (a) 責任感、正義感、道徳性は、ネット上で、匿名性に甘えることなく、責任のある態度で発言ができることは、幼児期からの日常生活で、自分が信頼されていて、周囲の人を信頼できるような安心できる人間関係の醸成が必要でしょう。信頼関係に基づく、倫理的環境づくりをしていかなければなりません。
- (b) 理性的判断、自制心は、情緒的・感情的な反応から、一歩引いて落ち着かせる訓練が必要でしょう。学級の活動では、ともすれば、雰囲気や勢いによって盛り上がることに、成功感をもってしまいがちです。理性的に、落ち着いて考え、判断する習慣作りが大切です。
- (c) 共感性、相手を思いやる力は、相手の立場に立って、ものごとを考えることができる力です。他人事としてではなく、何事も自分の問題として、他の責任にして逃げない勇気ともいえます。
- (d) 自己肯定感、使命感、奉仕性は、自分のすることが、何かの役に立っているという自信をつけることです。誰かのために、何かができる。そんなことを考える機会をつくることが有効です。
- (e) 幅広い視野、バランス感覚は、デジタルメディアが得意な子ども達は、プログラミング等に長けていると、その一点に集中して、周りが見えなくなることがあります。バランス良く周囲の状況を見極めて、専門的な力を生かせるようにしなければなりません。
- (f) 幅広い芸術性、感性は、デジタルメディアを利用すると、そのメディア自体が目的になって

しまうことがあります。常に、メディアを超えた世界があることを知るために、芸術は有効です。様々な音楽、文学、美術等々、創造的な芸術に触れて、感性を豊かにすることで、デジタルメディアを生かす人を育成できるでしょう。

(a)～(f)まで、PC を活用するためにつけておきたい力をあげましたが、これらのほとんどは、すでに各園・各学校で、日々取り組んでもらっていることばかりですが、コロナ対策で困難になってきており、ともすれば見直しの対象になったりしていないでしょうか。だとすれば大変なことです。

栗東市では、これらの力を、認知的な力（見える力）に対して、非認知的な力（見えにくい力）として大切にしていこうと考えています。そして、この見えにくい力を、早い段階から一貫して身につけてもらおうと、『栗東子育て教育ビジョン』を作成しているところです。0 歳から 15 歳まで、発達年齢別に一覧にし、「せいかつ」「あそび・まなび」「つながり」といった観点・領域を設けて、子どもたちのめざす姿を整理したものです。

例えば、ネットを活用するために必要な力をつけていくためにどんな方法で実践していけばよいか、この『子育て教育ビジョン』にあらわされている観点や領域、年齢等に照らし合わせながら、具体的な活動を考えて実践していく必要があります。場合によっては、内容を改訂していくこともあるでしょう。長いスパンの中で、就学前・小学校・中学校の接続を大切にしながら『子育て教育ビジョン』を活用して、必要な力をつける実践をお願いします。

児童・生徒一人ひとりが、タブレットPCに自分のIDを入力し、責任ある個人として、ネットワークに参加して、個人やグループの学習成果を共有する。その上で更に議論を重ね、新しい「共有知」をつくっていく。私たち大人の想像を突き抜けたところに、未来の社会の姿があるのであり、その未来を築き、その未来を生きていくのは、今タブレットPCを手に行っている子どもたちなのです。彼らに、その未来を支える力を、ぜひ育ててやってほしいと、切に願っています。

【令和3年度 栗東市立教育研究所 運営概要図】

栗東市 教育方針

心豊かに たくましく生きぬく人材の育成

教育研究所

基本方針

栗東市教育方針に沿って、教育の今日的な課題の究明
及び解決に努め、栗東市教育の振興・充実に資する。

研究事業

通常の学級と通級指導
教室をつなぐ実践調査
研究

～「子どもの学びをつな
ぐ」「教師がつながる」
視点から～

「きらりフル チャレンジ
～くりちゃん検定～」の
システム改善に関する
研究

今日的課題の
究明・解決

研修事業

教職員研修講座
就学前教育、小・中学校
教育、一般教育、特別支援
教育等に関する内容

教育研究奨励事業
保育者・教職員の自発
的な教育研究活動の促
進。研究の進め方等に關
する指導

就学前保育教育
初任者研修事業
信頼される園づくりのた
めに、保育倫理の確立、保
育の計画性、実践力等の
専門性の向上

指導力を
高める

渉外・啓発

渉 外
関係機関との連携
・県内教育研究所協議会
・県総合教育センター
・近畿地区教育研究（修）
所連盟

啓 発
・「教育研究所だより」
の発行とホームページ
への掲載
・プログラミング教材提供
・教育研究奨励論文集
の収録とホームページ
への掲載

関係機関との
連携

第19回 栗東市教育研究発表大会

研究奨励事業結果発表及び表彰・全体講評・調査研究発表・教育講演会

保育者・教職員の資質向上をめざします





教育研究所 運営委員の紹介！

市内の園長会、校長会、主任会、教務主任会の各代表の先生方に運営委員をお願いし、教育研究所の運営を展開していきます。運営委員の先生方をご紹介します。

園長会代表	治田東幼児園	園長	本山 真知子
校長会代表	葉山小学校	校長	小林 久 祥
主任会代表	大宝幼稚園	主任保育士	前田 恵 美
教務主任会代表	葉山東小学校	教諭	廣部 恵 子
教務主任会代表	大宝小学校	教諭	久泉 嘉 章
教務主任会代表	栗東中学校	主幹教諭	山本 致 子

◆昨年度は、新型コロナウイルス感染症により、「研究奨励事業」「夏期研修講座」の実施、開催を中止いたしました。まだまだ油断はできない状況にありますが、今年度は、感染拡大防止対策をしっかりと講じながらできる範囲で進めていきたいと思っております。感染拡大状況により、参加人数の制限をしたり、中止をしたりする場合がありますが、教育研究所の研修講座等にご参加ください。

教育研究所 所員の紹介！

所 長	高野 崇	副 所 長	武田 吾朗
★研修・研究係長	石田智香子	研修・研究係長	山口 敏生
研修主事	森 聡	研修主事	五藤 章
研修主事	吉川 寛	研修主事	井上 真澄
研修主事	稗田 将	研修主事	池田 美香
研 究 員	松田 愛		
★庶 務 係	井沢 多郎	小島 真宏	武田 育大 吉川 素子
★学習支援員	塩見 千鶴	豊田 有希	

〒520-3088 栗東市安養寺一丁目 13-33

栗東市教育委員会事務局内

TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149

E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp

